

令和7年度

「運営に関する計画」・自己評価(最終評価)
及び「学校関係者評価報告書」

やたなか小中一貫校
大阪市立矢田小学校
大阪市立矢田南中学校

令和8年2月

やたなか小中一貫校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の大きな課題の一つとして学力向上があげられる。全国学力・学習状況調査の結果をみると、全国・大阪市平均を下回る傾向であったが、近年、経年調査・チャレンジテストにおいて、小学校で平均を上回る学年や、中学校では大阪市平均に近づきつつある傾向がみられる。学力の向上に向けて、習熟度別・少人数授業の拡充や小中連携による授業力の向上、漢字検定の継続実施や自主学習の推進に取り組んできた成果が表れていると考えるが、今後も継続して、基礎的・基本的な学習内容の定着、児童生徒の自尊感情の涵養、学習習慣の定着を課題として取り組んでいく。これらの課題に対して、様々な取り組みを通して「仲間と協力し、自ら学び続ける態度と意欲を高め、自他を思いやる心を育てる」という学校教育目標を達成し、魅力ある学校づくりを目指して教育活動を行う。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ①令和7年度末の小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(小：92.4% 中：83.9%) **達成**
- ②令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和4年度より減少させる。(令和4年度 小9.65% 中10.23%) (令和7年度 小：4.4% 中：29%) **小：達成**
- ③令和7年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を令和4年度より増加させる。(令和4年度 小33% 中0%) (令和7年度 小：0% 中：59.0%) **中：達成**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①令和7年度末の小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童（生徒）の割合を33%以上にする。(令和4年度 小30.0% 中30.8%)
(令和7年度 小：51.5% 中：33.9%) **達成**
- ②令和7年度の小学校学力経年調査(中学校チャレンジテスト)における国語および算数(数学)の平均正答率の対市比(対府比)を1.00以上にする。
(国・算/数 3年：1.01/0.99 4年：1.01/1.01 5年：1.01/1.00 6年：1.00/0.98
7年：0.95/0.83 8年：0.90/0.91 9年：0.95/1.02) **概ね達成**
- ③令和7年度末の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。
(令和4年度 69.4%) (令和7年度 78.8%) **達成**
- ④令和7年度末の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
(令和4年度 63.8%) (90.9%) **達成**
- ⑤令和7年度末の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を59%以上にする。
(令和4年度 20.7%) (55.0%) **未達成**

⑥令和7年度末の小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を67%以上にする。

（令和4年度 63.9% 中：52.3%）（小：71.2% 中：48.2%）小：達成

【学びを支える教育環境の充実】

①授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）

（令和7年度 小：6.2% 中：0%）未達成

②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に揚げる教員の勤務労働時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75%以上にする。（令和7年度 80%）達成

3 中期目標及び本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

中期目標①～③、年度目標の①～⑤については、おおむね達成した。今年度の中学校のいじめ件数については2件で、1件は継続指導中、もう1件は解消の条件の期間に達していないため解消率が0%となっている。中期目標の不登校に関する項目において、中学生の不登校の割合が増加していること、新たに不登校になる生徒が増加していることが課題となっている。小学校の前年度不登校児童の改善した割合については、前年度不登校児童は1名で改善が見られなかったため、0%となっている。

本校では、年度初めに各クラスでなかま作りの目標を設定、校内研修「集団づくり検討会」を年間5回の実施、夢プラン「いい環境：不登校対応」班での不登校児童生徒の状況確認、対策検討など、様々な単位で各学年の児童生徒や実践について教職員が議論する場を設けている。引き続き一人ひとりを大切にする本校の強みを生かし、さらに魅力ある学校づくりを進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

中期目標①～⑥、年度目標に①～⑩については、概ね達成することができた。目標⑧「学習したことがよくわかる」については、肯定回答が80%を超えたものの目標には及ばなかった。小学校経年調査の国語において、3～6年生のすべての学年で大阪市平均を上回る結果となった。

今年度、中学校では英語や数学に加えて国語、理科で、小学校では算数の授業で少人数分割授業や習熟度別授業に取り組んだ。英語力向上のため、中学校ではすべての授業でTTもしくは少人数授業、C-NETの入り込みを、小学校では学年担当に加え、中学校の英語教員とC-NETが連携して授業を実施している。また、英語検定（中学）、英検 Jr（5・6年生）や英語同好会の発足等、様々な取り組みを行った。学力保障委員会とインクルーシブ委員会が連携し、児童生徒がつながりあう授業づくりについて今年度も研究授業を行って議論を進めるとともに、小中相互参観を行い授業力向上に取り組んだ。

生活面においては、体力向上や運動（スポーツ）への興味関心を引き出すために多くの行事（小中：体育大会、マラソン大会、遊ビジョン 小：ボール運動教室、縄跳び週間 中：球技大会、水泳大会）に取り組んだ。また、養護教諭による保健指導や、生活振り返り週間の設定、保健だよりを通じて児童生徒への指導と家庭への啓発を行ってきた。

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標・中期目標とも①については、達成はできなかった。②については、達成することができた。

一人1台の学習者用端末の授業での活用については、デジタル教科書、デジタルドリルによる反復練習・自主学習、調べ学習やグループ発表時のプレゼン作成等で、すべての学年が使用することができた。また、こころの天気の利用に注力し、目標に近い数値の日や到達する日があった。しかし、児童生徒数に対して、不登校児童生徒が占める割合が大きく、出席している児童生徒が全員活用しても8割にならないという目標設定の根本に課題がある。

働き方改革については、教職員の協力と意識改革、これまでの様々な取組、地域や保護者の理解により進めることができた。

やたなか小中一貫校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|----------|
| <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>①小学校学力経年調査(年度末の校内調査)における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を86%以上にする。(小:92.4% 中:83.9%) 小:達成</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 (昨年 小:4.7% 中:20.8%) (令和7年度 小:4.4% 中:29%) 小:達成 年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。 (昨年 小:0% 中:40%) (令和7年度 小:0% 中:59.0%) 達成</p> <p>③令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。(小:100% 中:0%) 小:達成</p> <p>④令和7年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童生徒の割合を前年度より減少させる。(昨年 小:2.8% 中:0%) (令和7年度 小:0% 中:8.5%) 小:達成</p> <p>⑤令和7年度末の校内調査において、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答の割合を80%以上にする。(小:89.6% 中:80.6% 全:85.1%) 達成</p> <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>①小学校学力経年調査(年度末の校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童(生徒)の割合を42%以上にする。(小:51.5% 中:33.9%) 小:達成</p> <p>②小学校学力経年調査(中学校チャレンジテスト)における国語および算数(数学)の平均正答率の対市比(対府比)を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 (国/算(数) 4年:0.04/0.01 5年:0.01/-0.01 6年:0.04/0.04 7年:-0.01/-0.04 8年:-0.03/-0.07 9年0.03/-0.04) 未達成</p> <p>③小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。(78.8%) 未達成</p> <p>④大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を59%以上にする。(55.0%) 未達成</p> <p>⑤小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(90.9%) 達成</p> <p>⑥小学校学力経年調査(年度末の校内調査)における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を67%以上にする。(小:71.2% 中:48.2%) 小:達成</p> <p>⑦令和7年度末の校内調査において、「学習したことがよくわかる」の肯定的回答の割合を87%以上にする。(小:82.6% 中:80.3% 全体81.9)</p> <p>⑧令和7年度末の校内調査において、「進んで授業に参加している」の肯定的回答の割合を90%以上にする。(小:93.0% 中:78.5%) 小:達成</p> <p>⑨令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、課題である反復横跳び(小学校)・長座体前屈(中学校)の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。 (小:31回 中:43.1cm) 中:達成</p> <p>⑩令和7年度末の校内調査において、「起きる時間や寝る時間が決まっていて、毎日規則正しい生活を送っている」の肯定的回答の割合を69%以上にする。 (小:79.1% 中:60.8% 全体73.1%) 達成</p> | B |

| | |
|---|------------------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>①授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) (小：6.2% 中：0%) 未達成</p> <p>②第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務労働時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 75%以上にする。 (小：68.0% 中：83.3 全体 80%) 達成</p> | |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> | <p>達成 状況</p> |
| <p>取組内容①【施策 1 安全・安心な教育環境の実現】 児童会、生徒会、生活委員会を中心にあいさつ運動を学期に 1 回行い、集会やポスター等でも啓発する。 (生活指導部)</p> <p>指標 学校評価アンケートにおいて「自分から進んで、元気よくあいさつができています」の肯定的回答の割合を 71%以上にする。</p> | <p>A</p> |
| <p>取組内容②【施策 2 豊かな心の育成】 互いの良さを認め合い、自尊感情を向上させる集団づくりを育成し、全クラス集団づくりを全教職員で考え進めていく。 (生活指導部)</p> <p>指標 学校評価アンケートにおいて「いじめを許さない心を持ち、友だちと仲良く支え合っている」の肯定的回答を 97%以上、「自分にはよいところがある」を 80%以上にする。</p> | <p>B</p> |
| <p>取組内容③【施策 2 豊かな心の育成】 人権を尊重する教育の推進を図るため、さまざまな教育活動の中で、児童・生徒一人一人が成就感をもてるように指導し、自尊感情を育む。 (人権教育委員会)</p> <p>指標 学校評価アンケートにおいて、「一人一人が大切にされている」の肯定的回答の割合を 80%以上にする。</p> | <p>A</p> |
| <p>取組内容④【施策 2 豊かな心の育成】 今年度の研究目標達成に向けて、協働して意欲的に学ぶことができる対話的活動について教職員全体で検討し学校全体で取り組む。 (学力保障)</p> <p>指標 協働して意欲的に学ぶことができる対話的活動について議論や実践をし、研究授業や相互参観を全教員が年 1 回以上行うことで、成果と課題について総括する。</p> | <p>A</p> |
| <p>取組内容⑤【施策 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ICT など様々な手法を用い、児童生徒が達成感を得られ、意欲的に学習に向かう姿勢を促す授業づくりを行うため、研究授業や校内研修など年間計画に従って実施する。また、放課後の補充学習やモジュール学習を見直し、基礎学力の向上をはかる。 (学力保障)</p> <p>指標 小中合同の研究授業を 2 回以上行い、児童生徒が主体的・能動的に参加できる授業づくりに、小中連携して取り組む。また、学校評価アンケートにおいて「進んで授業に参加している」と「学習したことがよくわかる」の肯定的回答の割合を 83%以上にする。</p> | <p>B</p> |
| <p>取組内容⑥【施策 6 健やかな体の育成】 体力向上に向け、各授業の初めにトレーニングの時間を設ける。前年度の体力テストの結果をもとに授業内容を工夫する。 (健康教育・保健体育科)</p> <p>指標 体育の授業の持ち方を工夫する。また、個々の目標を具体的に設定し、前年度の結果を上回る児童・生徒の割合を 70%以上にする。</p> | <p>B</p> |
| <p>取組内容⑦【施策 6 健やかな体の育成】 運動部の活性化や、集会・運動タイムの取り組みを充実させ、運動に親しむ機会を増やす。 (健康教育・保健体育科)</p> <p>指標</p> | <p>A</p> |

| | |
|--|---|
| <p>学校評価アンケートにおいて、「体を動かしたり運動したりすることが好きである」の肯定的回答の割合を77%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容⑧【施策6 健やかな体の育成】児童・生徒の委員会活動を中心に「規則正しい生活習慣をつける」ことの大切さについて呼びかける。 (健康教育)</p> | B |
| <p>指標 「起きる時間や寝る時間が決まっています、毎日規則正しい生活を送っている」の肯定的回答の割合を65%以上にする。</p> | |
| <p>中期目標と年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>中期目標と年度目標の達成状況は上記のとおりである。 取り組みの進捗状況と結果の分析については、以下のとおりである。</p> <p>①2学期も小・中合同であいさつ運動を実施した。小学校では、児童会が中心となって「ピザあいさつ」、中学校では生徒会が中心となって学年対抗あいさつコンテストを行った。「ピザあいさつ」ではあいさつをすると日替わりで具材をもらえたり、中学校では曜日ごとに「大きな声で」や「目を見て」などといった項目を変えてみたりした結果、意欲的にあいさつをする様子がみられた。 学校評価アンケートの指標となる項目について、「自分から進んで、元気よくあいさつができています」の小学生の肯定的回答が87.8%、中学生の肯定的回答が64.3%で、小中全体の肯定的回答が80.2%であり、小中全体においては目標の数値を上回った。</p> <p>②学校評価アンケートの指標となる項目について、「いじめを許さない心を持ち、友だちと仲良く支え合っている」の小学生の肯定的回答が96.5%、中学生の肯定的回答が98.2%、小中全体の肯定的回答は97.0%で、小中全体においては目標の数値に届いた。 集団作りにおいては2学期に遊びジョンとして、体育祭での9学年縦割り班による大玉おくりを実施した。学校評価アンケートの指標となる「自分にはよいところがある」の小学生の肯定的回答が80.9%、中学生の肯定的回答が73.2%、小中全体の肯定的回答が78.3%で、小学生のみ目標の数値を上回った。</p> <p>③「一人一人が大切にされている」の肯定的回答の割合が小学校93.9%、中学校82.4%と昨年度の結果を上回り、小中とも目標の80%以上も達成した。すべての教育活動において、全教職員が児童生徒に対して達成感や成就感を持たせようとする取り組み、生活実態を把握し児童生徒一人ひとりの自尊感情を高められるよう、今後も継続して取り組みを進めていく。</p> <p>④研究目標の達成に向け、小中一貫校の特色を生かして、小学校・中学校合同で研究授業・討議を行ってきた。校種や教科を越えて、「対話的活動を軸とした授業づくり」を目指したことで、学年に応じた対話的活動や系統性を視野にいたした学習指導ができるようになってきた。</p> <p>⑤計画通りに研究授業や討議会を実施し、児童生徒が意欲的に学習に向き合える授業づくりを目指して工夫をしてきた。その結果、指標である学校評価アンケート（最終）での「進んで学習に参加している」の肯定的回答は、88.3%（小93%、中78.5%）で、目標の83%を上回った。しかし、「学習したことがよくわかる」の肯定的回答は、81.9%（小82.6%、中80.3%）で、目標にはとどかなかった。児童生徒が、学習に対して達成感を得ることができるよう、今後さらに個別指導や補充学習を進める必要がある。</p> <p>⑥体力テストを行う際に、中学校3年間の個人の記録の変遷が明確になるようにカードを作成し、自己分析を行った結果、得点合計が前年度を上回った生徒が全体では58%にとどまった。男女別にすると、男子は76.5%に対して女子が35%と大きく差が出ており、体力向上に向けての意欲を持たせることが大きな課題である。</p> <p>⑦小学校ではかけ足タイムや縄跳びタイム、中学校では水泳大会や球技大会を行い、運動に親しむ機会を設けた。学校指標アンケートの指標となる項目について、小学生の肯定的回答が88.7%、中学生の肯定的回答が76.8%、学校全体の肯定的回答が84.8%であった。学校全体では目標の数値を上回ったが、中学生のみの回答では目標を下回った。また、中期目標である「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童生徒の割合は小学校のみ数値を上回り、中学校においての運動離れが大きな課題である。</p> <p>⑧学校評価アンケートの『起きる時間や寝る時間が決まっています、毎日規則正しい生活を送っている』</p> | |

の肯定的回答について、小学校は昨年度の 77.9%から 79.1%へ上昇し、中学校も 55.1%から 60.8%へ向上した。小中全体でも 69.6%から 73.1%へ上がった。全体では目標値を達成したが、6年生以上の各学年は達成しなかった。生活ふりかえりシートの決まった時間に寝起きすることに関する項目においても同様の傾向が見られた。現状では、学年が上がるにつれて、就寝リズムが悪くなっている。目標達成のために、保健指導や保健だよりの発行、保護者向けのポスター掲示やプリント配布等で啓発に努め、生活ふりかえり週間も実施した。規則正しい生活習慣は家庭の生活リズムと密接に関係しており、改善には家庭での協力と保護者への継続的な啓発が不可欠であると考えられる。

来年度への改善点

【生活指導部】

学校評価アンケートでは中学生のあいさつに対する自己評価が低いが、生徒会が中心となって取り組むあいさつ週間の時には意欲が高まるので、今後とも日々の登校指導を継続しつつ、あいさつの啓発方法について工夫していく必要がある。

集団づくりにおいては引き続き縦割り活動も取り入れ、「いじめを許さない心や友だちと仲良く支え合う心」は大切にしながら、自尊感情を高められるような取り組みを今後も継続していく。

【人権教育委員会】

来年度も子どもたちの実態に合わせて人権教育実践、小中合同活動を基本に置き、主体的に取り組める活動を工夫していく必要がある。また、日常の教育活動の中で、一人ひとりを大切にした声掛けや、丁寧なかかわりを通して子ども同士、子どもたちと教職員の関係づくりを進めていきたい。子どもたちが生き生きと過ごし成長していける学校をめざすためには、子どもたち、「一人一人を大切にする」意識を教職員がしっかりと持つ必要がある。

【学力保障】

- ・児童生徒の学習の理解度や満足度を高めるため、今度も教職員の指導力向上を図っていく。
- ・新規渡日の児童生徒の学力保障についても、体制や方法について議論していく。
- ・夢プラン（「協働的な学び」「個別最適な学び」「探究的な学び」）との関連を考えながら、カリキュラムマネジメントをしていく。

【保健体育】

- ・体力テストの結果を総合的に分析し、体育の授業におけるトレーニング内容を工夫する。
- ・部活動や地域でのスポーツ活動に参加する生徒の割合が低いので、地域クラブなどのスポーツ活動への関心も深めていく必要がある。
- ・体力の向上は、規則正しい生活習慣と密接に関係していることもあるので、健康教育部とも連携しながら啓発を進めていく。

【健康教育】

- ・規則正しい生活習慣の定着は本校の重要な課題であり、小中9年間を通してそれを継続できることが児童生徒にとって大切である。今年度の取り組みを通して、低学年からの指導の充実と保護者への啓発の必要性をより強く認識した。来年度も、睡眠時間の確保や朝食・排便を中心とした生活習慣の定着を目指し、啓発活動の充実を図るとともに、低学年からの計画的な指導と保護者への啓発を重点的に進めていく。

1 総括についての評価

今年度の自己評価（最終評価）結果は妥当である。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

- ①小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を86%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。
- ③令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- ④令和7年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童生徒の割合を前年度より減少させる。（
- ⑤令和7年度末の校内調査において、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答の割合を80%以上にする。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」や「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が高いことは、学校が集団づくりを通して取り組んできた成果が現れている。中学校において、不登校生徒の増加が課題である。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

- ①小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童（生徒）の割合を42%以上にする。
- ②小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における国語および算数（数学）の平均正答率の対市比（対府比）を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- ③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。
- ④大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を59%以上にする。
- ⑤小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- ⑥小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を67%以上にする。
- ⑦令和7年度末の校内調査において、「学習したことがよくわかる」の肯定的回答の割合を87%以上にする。
- ⑧令和7年度末の校内調査において、「進んで授業に参加している」の肯定的回答の割合を90%以上にする。
- ⑨令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、課題である反復横跳び（小学校）・長座体前屈（中学校）の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。
- ⑩令和7年度末の校内調査において、「起きる時間や寝る時間が決まっていて、毎日規則正しい生活を送っている」の肯定的回答の割合を69%以上にする。

就学援助受給率が高いという社会的背景がありながら、経年テストやチャレンジテスト等の結果が上がっていること、「授業が分かりやすい」というアンケートに対する肯定的回答が高いことは、高く評価できる。「やたなか夢プラン」における「少人数授業」や「探

求学習」「英語学習」の成果が表れている。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

①授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)

②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務労働時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75%以上にする。

学習者用端末を活用が大幅に進んだにもかかわらず、生徒数の少なさや不登校の児童生徒の人数で評価が下がってしまうというのは、いかがなものか。

3 今後の学校園の運営についての意見

学校が様々な取組を行っていることがよくわかった。課題であった学力面において、大阪市平均を上回る学年、教科が複数出たことは喜ばしいことであり、魅力ある学校づくりに向けての「やたなか夢プラン」の成果であると考えます。今後の課題として、体力向上と規則正しい生活を送ることがあげられる。

これからも子どもたちが元気でいきいきと楽しく学校生活を送れるよう先生方のご指導をお願いいたします。